

伊東市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 令和6年5月24日（金曜日）午後2時30分～午後4時
- 2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室
- 3 出席者 教育長 高橋 雄幸 委 員 村上 恵宏
委 員 遠山 泰範 委 員 辻 恵
- 4 参 与 教育部長 浜野 義則 次長兼教育総務課長 杉山 宏生
教育指導課長 森田 まり 幼児教育課長 鈴木 慎一
生涯学習課長 山下 匡弘 政策推進担当課長 肥田 耕次
- 5 事務局 教育総務課課長補佐 二宮 悠 主査 藤原 真紀
- 6 会議の経過

高橋教育長：ただ今から伊東市教育委員会5月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

（事務局から出欠報告及び資料確認）

高橋教育長：それでは議事に入る。始めに、教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

- 4月26日 市PTA連絡協議会総会、市功労者との懇談会
- 30日 東部社会教育振興協議会訪問、沼津視覚特別支援学校訪問
- 5月 1日 日本ボーイスカウト県連盟伊豆地区役員来庁、
市教育機関職員試験委員会打合せ会
- 5日 伊東市少年少女合唱団第47回発表会
- 8日 市立幼稚園教育研究会総会
- 9日 校長会、東部社会教育振興協議会理事会
- 10日 政策会議、幼稚園長会、市立幼稚園PTA連絡協議会総会

- 12日 オクサーナ・ソプラノ・
リサイタル（ウクライナ出身）（観光会館）
- 14日 市教科等研究員研修会、市教育機関職員試験委員会
池区より本の寄贈（300冊）
- 15日 国際交流協会会長役員来庁
- 16日 人事評価制度校長面談
- 18日 伊東祐親祭り式典、薪能
- 19日 伊東祐親祭り夢舞台
- 20日 市育英奨学選考委員会、新図書館建設要望
- 21日 タウンミーティング（池区）
- 22日 中小企業家同友会伊東支部講演会、伊豆介護センター訪問
- 23日 タウンミーティング（玖須美区）、いでゆ大学開講式
- 24日 教育委員会定例会、市長と教育委員懇談会、政策会議、
市体育協会代議員会

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：それでは、各委員からの報告をお願いします。

委員：先日の校長会のことを、市長との懇談会のときにも話させていただいたが、校長先生の方から施設の老朽化、どこの学校も雨漏りしている学校が結構あるということ、あと南小学校では、壁が落ちてきたというような話もあって、子供がいなかったなので、けがとかはなかったようだが、その辺は、子どもたちに怪我のないように点検していただきたい。どの学校からも施設の老朽化についての話は結構出ました。多忙ということで、支援員の増員をお願いしたいという中で、専門的な知識を持った支援員を、教育部の方も一生懸命探している

けれどなかなか見つからないという話も聞くが、人材バンクのようなものを作ってみたらという話もあったので、今後、検討する余地もあると思った。

委員：最初に全体的な学校のスタートが今年はとても良かったということを校長先生方がおっしゃっていたのがとても良かったと思った。先生方、そして教育に携わる皆さんのおかげだと思っている。入学式もすごく落ち着いた雰囲気、自分が参加した学校も特にそのように感じた。あと、老朽化というところで、市内の学校はどこの建物も40年から50年というところに来ているので、鉄筋コンクリートの建物で、そろそろ見直しが必要な時期に、どの学校も来ている中でいろいろ問題が起きて、雨漏りのこともあったが、錆の混じった水道水が出るので、朝、水道をある程度流してからではないと、生徒たちに使わせてあげられないとか、この辺のインフラも全体的に力を入れるとなるとかなりコストがかかることだが、優先順位を決めて進めていかないと、何十年も先になってしまうので、見直しをしながら、少しずつ進めていってもらえたらという話が出ました。あと人材バンクについては、多様化するお子さんたちの対応という話もあり、部活動の指導員の先生方を募集するという意味でも、資格であったり、スポーツの経験などが必要になると思うが、他の市町や、県の対応などを参考にしつつ、必要なことなのではないかと思った。伐採などでPTAの奉仕作業では手に負えない部分もあって、風雨で危険になってきていると心配している学校もあったので、特に命に関わって、怪我に繋がるようなところは優先的に考えていただけたらと思う。

委員：校長先生の意見を聞いて印象に残ったのが、子どもたちともう少し距離を縮めていろいろ関わって、取り組みたいこともあるのだが、先生たちの業務が多すぎて、そこまで手が回らないという意見があった。その中で勤務時間がどうしても長くなってしまうとか、一番早急に対応してもらいたいのは、現金

での集金業務を行っている学校は、手集金の業務が担任の先生、事務職員の負担であると話していて、今年度末までに全校が口座振替になるということだが、そうであっても確認作業があり、校長先生の方からは市の公会計で、できれば校納金を集めてもらって、先生達の業務が少し軽減されればという話だった。あと、今支援を必要とする生徒児童が非常に増えてきているということで、支援員の拡充は希望があった。残業がかなり多いと話をした校長先生がいて、先生たちの働き方改革、先生たちを守ってあげる、そういう教育環境になっていかなければならないと思う。不審者対策については、児童玄関が空いていたり、誰でも入れるような状態になっていて、これからの課題だという話があった。他にも、どこの学校もグラウンドに砂が少ない、硬い広場になってしまっているという話だったが、富戸小学校はグラウンドの水はけが悪く、前日に雨が降ってしまうと、水がはけないので、次の日が天気でも子供たちが外で遊べないと校長先生がおっしゃっていて、これはちょっとかわいそうだなと思った。富戸小学校に限らず、水はけの悪い学校はまだあると思うのだが、いろいろな課題がある中で、やはり早急に対応していかなければいけないところのリストを挙げてできるようになればと思った。

高橋教育長：校長からいろいろ話があったと思うが、答えられる部分は課長ごとに、答えてもらおう。私の方に報告がきている件もあるのだが、基本的に老朽化については教育総務課で対応している。限られた予算の中で、優先順位をつけながらやっているが、緊急的なことがまた入ると、それをやると今度また次に回るとか、そういうことが実際あって、限りなく予算があればと思うのだが、なかなか厳しい実態があり、私は各課ができる限りのことはやっているなという気持ちがある。

杉山次長兼教育総務課長：今教育長がおっしゃったように、学校側の現場での

苦労というのはすごくわかる中で、やれるところからというところ、そして計画していたけれど、緊急的な部分から修繕したがゆえに、予算が足りなくなる部分はある。来年度予算についての要望を各学校から10個上げただけでも、12校もあれば120個になってしまうので、なかなか修繕できないというところである。南小学校の壁については、本当に危険な部分があるので、南小学校も、確か昭和44年ぐらいの建築竣工だと思うので大体55年ぐらい経っていると思う。そこについてはどこで崩落があるかわからない可能性があるので、緊急的に対応しなくてはならないと思っている。グラウンドや学校内の樹木というのは、ずっと放置している状態が続いていたので、計画を持って対応していきたいと思っているが、それでも数年はかかってしまうので、今年から適正配置ということで今後の学校統合などを考える中で、進めていきたいと思っている。あと現金集金については、確かに今年からネットバンキングを各学校が取り入れて、今年中にほぼ整うはずなので、学校と話し合いながら、給食費や校納金などの整理をしていきたいと思っている。水はけが悪い学校については、教育総務課としては一応把握はしているが、学校の子供の安全安心が一番という観点で対応していきたいと思っている。

森田教育指導課長：新年度良いスタートが切れたようだという言葉聞いて安心という学校もあるのだが、課題がよせられている学校もあって、全体的には4月の問題行動などは本当に少なくスタートできていると思う。多忙化がなかなか解消しなくて、本年度も中学校での教員の休憩時間の取り方を大きく変えて、ずいぶん良くなったということも聞く一方、帰りが遅くて、先生たちの4月の勤務状況を見ていると、健康面でも心配ということもある。ずいぶん行事や会議など、様々なものを見直しているが、それではもう対応できないというところで、ICTを使ったり、業務改善も進めているが、まだまだやらなけれ

ばならないことが多くあると思っている。中学校では、特に部活動が大変な業務で、教育指導課としても見直し委員会の中で、指導員についても広く声をかけたり、一生懸命探しているところではあるが、子どもたちを預かって指導して、そして試合の引率となると、なかなか受けてもらえる方を探すのは難しい状況だが、中学生は今後、スポーツチームを学校では組めないぐらいの人数の減少が見込まれているので、その中で学校に残る部活もあったり、伊東市で合同チームを組めるような取り組みであったり、少し具体的な案を出し、先生たちの負担を軽減しようとしているところである。

委員：留守番電話が設置されるということでもありがたいという声を聞いた。それにちょっと付随するが、今、電話とインターホンが一体になっているものもあると思うのだが、インターホンがあると、防犯上で施錠して後から来る人や、対応するのに行ったり来たりがなくて済むので、そういう機器の充実も、先生方の負担軽減に繋がるのではないかと、コスト的にもインターホンであれば安くいけるのかと思うので、また検討していただきたい。

高橋教育長：要望については、しっかりと事務局内で連携しながらできることはやっていきたいと思うので、また教育委員の皆さんの方に何かそういう声が届いたならば、伝えていただけたらありがたいと思うので、よろしく願いしたいと思う。

高橋教育長：次の議題に入る。始めに、報告事項、教報第2号「令和6年度実施伊東市教育機関職員採用試験について」を議題とする。

（杉山次長兼教育総務課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：以前、募集したときに、県外の学校であったり、広く募ったと話をしていたように思うが、今回もそういう形で募集したのか。それに対しての反響や、

気付いたことがあれば教えていただきたい。

杉山次長兼教育総務課長：配布については今年も、昨年同様に県外の学校にも送付し、広報に努めていきたいと思っている。昨年度の実績として、県内の学校の方が採用になっているが、昨年度、幼児教育課長と広報を行ったところ、保育士が増えたので、相応の成果はあると思う。

鈴木幼児教育課長：ちょうど現場の新採の面談をしていた時期だったので、そのときの新採の保育士たちが、現場ですごく楽しくやっているという声もあって、たまたま行った小田原の短期大学は、その新採の母校ということもあって、この学校の卒業生が、自分が描いていた夢を叶え、保育現場ですごく楽しくやっている、引き続き後輩たちもお願いしたいという話になった。そこからだんだん保育園現場の話になってきて結果的に、保育士と幼稚園教諭と両方の資格を持っている方の採用なので、周りの自治体では、保育士または幼稚園教諭で採用して、異動で幼稚園に配属になったり保育園に配属になったりというパターンで、門戸が両方共通したものであるが、伊東市は幼稚園または保育園としての採用になるので、宣伝の仕方がどちらかというと、保育園で楽しくやっているという宣伝をしてしまったかというところもあって、たまたまその子の母校が保育園に採用されたというところもあったと思う。ただ結果的に、その学校からは保育園のエントリーが複数あったので、今年度の幼稚園の採用に繋がるといいと思っている。

高橋教育長：今年度の採用予定は5人程度である。教育委員の皆さんにも呼びかけていただいて、幼稚園の試験を受けたいという方がいれば是非進めていただきたい。

高橋教育長：以上で報告事項を終了する。次に、その他「常任福祉文教委員会協議会の報告について」を議題とする。

(杉山次長兼教育総務課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：トイレも綺麗に修繕して、子どもたちにとって非常にいいのではないかというのは聞いている。順番で、計画的にやっているので承知していたきたい。その中で、南中学校や対島中学校の体育館横のトイレなど、かなり老朽化が進んでいるが、私のところにも南中学校の屋外トイレについては、試合で他校から野球部やサッカー部などが集まるが、1ヶ所しかないのも、そこがドアもなく、落ち葉もたまったりしてという声は時々聞いている。また対島中学校の体育館外トイレもかなり暗くて困るという声も聞いたが、その辺の見通しというのがあれば教えていただきたい。

杉山次長兼教育総務課長：先ほどトイレの洋式化率が70%程度だという話をしたが、ある程度洋式化が増えてきたが、まだ学校校内でも和式がかなり残っている中で、富戸小学校の洋式化率がかなり低い状態になっている。便器数はかなりあるのだが、洋式化があまりされてない状態である。今教育長が言われたように対島中学校の体育館内にトイレがなくて、外に行かなくてはならない状況なので、優先順位を考えながら行っていきたいと思う。トイレも、なかなか高価なものなので、計画的に順次やっていく方向で考えている。

高橋教育長：次にその他「各課報告について」を議題とする。

杉山次長兼教育総務課長：令和6年度伊東市の育英奨学金の選考について報告する。5月20日に選考委員会を実施し、新規採用者を決定した。申請25人に対し、21人を採用した。内訳は4年制大学16人、専門学校が5人であった。今年度も高校生からの申し込みはなかった。この結果、令和6年度の奨学金の対象者は、令和5年度までの継続対応者を含めて、72人となり、今年度の貸与総額は、4,754万円となる。

森田教育指導課長：教育指導課から生徒指導について報告する。令和5年度小

学校中学校の問題行動について、小学校の問題行動の件数は、令和３年度以降減少してきている。全体的には減少しているのだが、その粗暴行為については、昨年度よりも増加している。

（森田教育指導課長から資料に沿って説明）

鈴木幼児教育課長：特になし。

山下生涯学習課長：令和６年度募集事業の結果について報告する。一点目のいでゆ大学は、市内在住の６０歳以上の方を対象にした通年講座で、中高年の親睦を深め、より充実した人生を送るため、座学やフィールドワークと年間１８回の講座を予定している。第１期生を募集したところ３０人の応募があり、３人が辞退し、２７人を受講生として決定した。内訳は男性１０人、女性１７人で、平均年齢７２．２歳、最高齢は８７歳男性である。２回生２３人と合わせ、５０人での講座のスタートとなる。二点目の小学生ふるさと教室は、小学校５・６年生を対象にした通年講座で、ふるさと伊東の文化や歴史を学ぶほか、恵まれた自然の中で様々な体験を通じ、他校の子供たちとの友情の場を広げる目的で実施する。定員４０人に対し９０人の応募があり、抽選を行い、定員と同じ４０人を受講生と決定した。内訳は５年生１４人、６年生２６人で、落選した５０人に対し、７月１３日に開催する伊東ウォーターパークオープニングセレモニーの参加募集チラシを配布し、申し込みがあれば優先的に受け付ける予定である。三点目の夢チャレンジクラブは、小学生ふるさと教室に、青少年リーダーとして参加し、社会性やリーダーシップを学ぶものです。定員２０人に対し２９人でしたが、指導を通じ、リーダーの役割を学ぶため２９人全員を登録した。四点目の青少年育成プログラム「みち」は、小学校５・６年生を対象にした宿泊型の研修で、本市を離れ、姉妹都市の諏訪市での体験学習を通じ、友情・責任・協調・忍耐などを学ぶとともに、青少年の健全育成を図るもので

ある。定員30人に対し、57人の応募があり、定員と同じ30人を、受講生として決定した。5年生12人、6年生18人で、本研修は8月5日から7日までの2泊3日で、長野県諏訪市において、もの作り体験や諏訪市の歴史を学ぶことになる。

肥田政策推進担当課長：特になし。

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：4月の不登校の件だが、1年生の準不登校生について理由を伺いたい。

森田教育指導課長：1年生の最初の登校しぶりがあり、遅刻カウントになると、そこが不登校ということで、1年生のときは、その数が多いというように聞いている。

委員：ゴールデンウィーク明けて、どこの学校も増えてくるかと思うのだが、この1年生の子たちは今でも絞ったりというのがあるのか。

森田教育指導課長：個々について資料はないが、改善されて登校してくる児童については、1学期中ごろ、運動会が近づいてきて、調子が出てくるというような子もいる。

委員：不登校の対応をしていると思うのだが、子どもたちはもちろん、保護者の方が、特に母親は自分がいけなかったのではないかと感じて責めたりする。それで気持ちが沈んでいくと、支えていく保護者の方も健全でないといけないと思うのだが、子供に対してもそうだが、保護者の方に対してカウンセリングや負担を抱えすぎないようなケアというのは何か対応しているか。

森田教育指導課長：休みが増えた子は、必ず保護者の方とまずは担任が話をするようにしているが、やはり保護者も、なかなか学校には言いにくいところもあるようで、多く相談してくださる方もいれば、あまり心を開いてくださらない方もいる。学校にカウンセラーやソーシャルワーカーが来たりするので、保

護者がカウンセリングを受けることもできる。お子さんと一緒に誘いをしたり、相談できるところを紹介している。

委員：なかなか自分から受けたいと言いにくかったり、逆に言いすぎても難しいと思うが、提案していけるような形で支援が進めばいいと思う。

高橋教育長：生涯学習課のふるさと教室は、非常に人気があって、毎年倍以上の人が応募して落選する子がいるのだが、何とか全員受け入れたいと思うが、受け入れ体制のこともあって大変だと思う。非常に人気のある事業で、伊東の良さを子どもたちが体験する。すばらしい体験場所だと思うので、広くやっていきたいと思うが、現状は受け入れが厳しいということで、今後も募集は40人程度という、そういう捉えてよろしいか。

山下生涯学習課長：漁業体験とか、講座を実施してもらう相手の受け入れに限度がある。またチャンスとしては5年生と6年生で2回あるので、どちらかで受講してもらうよう配慮し、また夢チャレンジクラブで、指導者としてふるさと教室に参加することもできる。キャパを増やすのは難しいが、なるべく広く多く受講してもらうような受け入れをしていきたいと思っている。

委員：この90人の中から40人はどのように選考するのか。

山下生涯学習課長：エクセルの関数を利用した乱数により抽出している。

高橋教育長：抽選で苦労しているというのは聞いているのだが、なるべく多くの子供に体験させたいと強く思う。富戸の海に潜ってサザエをとったり、漁船に乗って、沖合から、伊東の海岸線を見るというのは、なかなか体験できなくて、伊東の良さ、素晴らしさを体験する一つの授業だと思うので、大切にして、広げていけたらいいと思っている。非常にすばらしい事業だということは、教育委員の皆さんに知っていただけたらと思う。

委員：育英奨学金について、伊東市の奨学金を借りて地元に戻ってきて働くよ

うになったら、返済が半額になるという制度だと思うが、この奨学金を利用した人が、実際、伊東に戻ってきているのか実態を伺いたい。

杉山次長兼教育総務課長：新しく始まった制度で、まだUターン率は手元に資料がないので改めてお答えしたい。

森田教育指導課長：先ほどの留守番電話のことを説明させていただく。6月1日から運用を始めようと考えているが、小中学校の朝7時半から6時30分までが電話の受付時間、それ以外は対応できませんというアナウンスが流れる。留守電の録音機能はない。保護者へのアナウンスとしては、緊急時は市役所に電話をしていただく、それ以外については、翌朝7時半以降に連絡をお願いしますということでお知らせをすることになっている。

高橋教育長：6月から留守電の時間が決まっているので、承知おき願いたい。

委員：時間は今何時とおっしゃいましたか。

森田教育指導課長：夕方6時30分から留守電にセットされる。ただし勤務時間は4時30分、学校によって4時40分など違いがあるが、勤務時間はそこで終わっているの、必ず6時30分まで取れるということではなくて、そこで全て職員の勤務時間が終了し、帰宅してしまう可能性もあるわけなので、その時は留守番にセットする。勤務終了時間から6時30分までは出る、出ないこともある時間というように案内していく。保護者の方にはその説明の通知を出す。

高橋教育長：6時30分というのは現場からの声で6時30分になったという捉えでいいか。

森田教育指導課長：各学校からの意見を取り入れて、例えば6時とか、もっと早い時間も選択肢としては当然あったが、共働きの家庭も多くて、早い時間だと連絡がつかないことがある。連絡してもすぐ返信してもらえないことも多く

あるので、そこら辺の兼ね合いで、6時30分としている。

高橋教育長：学校現場から事情を聞いて、6時30分に設定したという捉えをしてもらえればと思うのだが、個人としては、将来的には、勤務時間が終わった時点で留守番電話をセットするというのが、ベストではないかと思う。教員の勤務時間が6時30分まで、教員はいるという逆に捉え方をされてしまうと、私は嫌だなと感じている。しかし、現場からはそういう話が出ているので、尊重しようと思うが、数年後には、やはり、学校の勤務時間終わった時点で、留守番電話をセットできればと思うところはある。

委員：保護者への通知とは、一斉に配付するのか。

森田教育指導課長：市内全学校が同時に5月29日に通知を配付する。

杉山次長兼教育総務課長：今回留守番電話を入れるにあたって、かなり前から設置したいというような話があり、考え方が各先生方によって違う中で、ここ1年の中で、特に設置して欲しいという意見が強くなったと思っていて、今回はこういう形で入れようという形になった。基本的には手動で設定することになっているので、勤務が終わって押し忘れるとアナウンスが流れない形になるが、自動よりはしっかり学校ごとの判断の中でやっていくことになる。また今後実施しながら意見もあると思うので、その時にはまた対応していければと思う。

高橋教育長：教育委員の方にいろいろな意見が届くと思うのだが、こういった趣旨でやらせてもらい、伊東市では、初めてのケースになると思う。

杉山次長兼教育総務課長：周辺では、三島市や、函南町と県立高校でも取り入れているのではないかと思う。

高橋教育長：そういう状況で、現場とのすり合わせをしながら時間を決めたり、教職員の働き方改革について、事務局の方でいろいろ試みて、また教育委員の

方に、いろいろな声が届くかもしれないので、よろしくお願ひしたいと思う。

委員：最近、通学の帽子は黄色い帽子でなくてもよくなったのか。いろいろな情報があつて実際、違う帽子を被っている子供を見かけたが、その辺がどうなっているかということと、どのような通知が届いているのかというところを伺いたい。

森田教育指導課長：今年変更になったのは伊東小学校だと思う。1・2年生は黄色い帽子を被ることになっており、それ以上の学年は必ずしも被らなくても良いが、黄色い帽子を被り続けても良いし、あるいは個人で好みの帽子を被っても良い。夏は熱中症の心配があるので、被ることを推奨するという形である。伊東小学校は昨年度3学期に行ったPTA総会でお知らせしたり、学校だよりなどで来年度から変更になるというお知らせをして、年度初めにも、生徒指導の生活の決まりのようなどころでお知らせをしていると思う。これは学校ごと様々で、大池小学校も1・2年生が黄色い帽子で、八幡野小学校は、もうずっと前から自由帽子、その辺は学校によって様々な差がある。

委員：自分はずっと黄色い帽子だったので、最近は変わったのかなというところで、年度が変わってから書面での通知がなかったので、今の留守番電話のこともそうだが、帽子のことも、前の校長会の時も申しましたが、今デジタル化、ペーパーレス化が進んでいる中で、その最重要としてしっかり押さえて欲しいというところは、書面プラス電子メールとするなど、この辺りの通知が上手に行き渡るようなになればいいと思う。

高橋教育長：4月の定例会で、中学校の制服で、ポロシャツが紺色で指定されたが、白色でもいいかと質問があつたと思うが、どちらでも構わないということとで承知していただきたい。PTA総会の時に細かい資料の時は紙でいうことについても、校長会に伝えて、そういうような声があることは話をしたので、

承知していただきたい。

高橋教育長：その他全般的に、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：今後の日程について確認する。

事務局：6月の定例会については、6月27日(木曜日)午後2時30分を予定している。7月の定例会については、7月23日(火曜日)を予定とする。

高橋教育長：以上で伊東市教育委員会5月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長 高橋 雄幸

委 員 遠山 泰範

書 記 藤原 真紀